

信楽園病院だより

130号 平成24年1月1日 発行

〒950-2087 住所 新潟市西区新通南3丁目3番11号 Tel 025-260-8200 FAX 025-260-8199
E-mail renkei@shinrakuen.com ホームページアドレス <http://www.shinrakuen.com>

院長年頭ご挨拶

信楽園病院 院長 皆川 信



皆様、明けましておめでとうございます。

昨年は東日本大震災という未曾有の大災害に日本中が振り返された年でもありました。

信楽園病院では幸い掛け時計が落ちたくらいで、直接の被害はありませんでした。しかし震災から数日後の3月17日、現地で透析治療を受けられなくなった“いわき地域の透析患者”さん約150人が新潟県へ避難してきましたので、そのうち30人の透析治療を急遽信楽園病院で引き受けることになりました。突然の事態だったのですが新潟県の透析治療の中核病院を自負する本院としては当然のことと考えました。しかしこの時の信楽園病院の職員の仕事ぶりには自分の病院の職員ながら感心したしだいです。時間外にもかかわらず医師、看護師のみならず事務、栄養科、放射線科、検査科、臨床工学科、薬剤部などの職員が、大変一生懸命、てきぱきと的確に、そして大変モチベーション高く行動してくれました。それを見まして改めて信楽園病院の職員の質の高さを再認識したところであります。

またその後、当院ではJMATという日本医師会主導の災害医療チーム派遣活動に参加しました。数人ずつでチームを組み数日間ずつ被災地で医療活動に当たるという取り組みですが、当院では医師、看護師2名、薬剤師、事務職員の計5人でチームを組み、4月半ば、5月末と2回にわたり石巻地区で活動してきました。メンバーは職員の中から希望者を募ったのですが、多数の応募者があり、この時も職員の意志の高さを実感することができました。2チームとも信楽園病院の代表としてふさわしく、立派な救援医療活動を展開してくれました。話は変わりますが、今年の春にはいよいよDPC（診断群分類別包括評価制度）に正式参加いたします。厚労省の医療費削減を目的とした制度であることは明らかなのですが、急性期病院として生き残るには避けて通れない道と考えています。効率的な医療の実現など病院一丸となった取り組みが必要となりますが、これまで「医療機能評価」、「病院移転と電子カルテ導入」、今回の「震災対応」など大事な節目になるごとに発揮されてきた職員の能力の高さをもって今回もきっと乗り切ることができるものと確信しています。

本年も信楽園病院をどうぞよろしく願いいたします。

